

平成28年度学校自己評価システムシート (国際学院中学校高等学校)

目指す学校像	建学の精神「誠実・研鑽・慈愛・信頼・和睦」を身に付けた人材の育成
--------	----------------------------------

重点目標	1 豊かな人格形成 2 確かな進学指導 3 選ばれる学校づくり 4 国際理解教育(ユネスコスクールとして)の推進
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者評価委員	5名
	第三者評価委員	5名
	事務局(教職員)	15名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価						
年度目標				年度評価(2月15日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	○建学の精神「誠実」「研鑽」「慈愛」「信頼」「和睦」のもとより具現化するために、教育目標・教育方針「礼を尽くす」「場を清める」「時を守る」を実行している。また、生活の重点目標として「身だしなみ」「話を聞く」「けじめ」等、人間教育に重点をおいた豊かな人間性を備えた【人づくり教育】を実践している。	○生徒指導の充実 ○部活動の充実 ○学校行事の充実 ○人権教育の充実 ○地域、関係機関との連携	①挨拶、清掃活動、頭髪・服装等の基本的な生活習慣に係わる指導の徹底。 ②「生徒指導から進路指導」「授業規律の確立」をテーマに、授業姿勢に対する指導。 ③部活動、学校行事への積極的参加の奨励。 ④問題行動の未然防止、天災に備え、地域・各関係機関との連携の強化。	①挨拶、頭髪・服装等ができていない。 ②チャイム着席ができていないか、居眠りや忘れ物がない。 ③部活動の参加状況および実績状況。また、生徒主体での学校行事ができていない。 ④日常的に学校開放、防火防災訓練、問題行動の未然防止ができていない。	○落ち着いた学校生活を送る生徒が多く、授業や部活動に意欲的に取り組む生徒が多い。 ○授業中や休み時間等、携帯電話の使用や不要物の持ち込みで指導をすることが多くあった。 ○部活動において、全国大会優勝や準優勝などの実績を残し、各部の活躍が目立った。	B
2	○進路実績を向上させるためには、一般入試を受験する生徒をいかに増やしていくかが課題である。また努力せずに入ることができない上級学校を探す傾向にあり、志望校のレベルを下げない指導を行っていく必要がある。保護者の意識を高めるために、資料配布や説明会を計画的に実施していく。	○国公立・難関私大への合格者延べ20名以上 ○有名大学への合格者延べ40名以上	①進路活動の見直しを持たせる。 ②各学年主任と連携。 ③総合進学コースIのセンター試験全員受験。 ④コース制の状況に合わせた進路指導の実施。 ⑤保護者向け説明会の定期的開催。 ⑥特別奨学生制度の見直し。	①進路計画について配布した。 ②各学年主任と情報を共有し、指導に当たることができた。 ③受験に向けて、全体で取り組み姿勢が見られた。	○国公立・難関私大合格者が現在3名、有名私立大学25名である。一般入試の結果次第であるが、現時点では昨年度の実績を上回っている。 ○第1学年において保護者向けの進路説明会を増やすことができた。 ○特別奨学生Eを新設し、成績優良者に対して奨学金の給付を行うことができた。	B
3	○昨年度、定員超過が著しかったため基準を引き上げ、かつ定員を確保する必要がある。 ○各種生徒募集活動により本校の教育について積極的にPRした結果、2年連続1700名以上となる志願者数となった。今後も定員充足かつ、上位コース入学者の増加を目指し、分かりやすい広報募集活動に取り組む。	○各コースの定員充足 ○質の高い広報媒体の制作 ○中学校訪問、塾訪問校数 ○学校説明会、個別相談参加者数 ○外部会場相談会等の参加者数	①学校案内、ポスター、チラシ等の見直しと制作。 ②HPの適時更新。 ③中学校訪問、塾訪問。 ④学校説明会、個別相談会の実施。 ⑤外部会場相談会等への参加。	①学校案内等について受験生、保護者、中学校、塾の評価は良好であった。 ②HPの更新頻度は適切であった。 ③中学校や塾に対して適切な情報提供ができた。 ④学校説明会、個別相談会は充実していた。 ⑤外部会場相談会の参加者が増えた。	○学校案内等は概ねよい評価を得た。 ○HPで一部、更新のタイミングが遅れた点があった。 ○訪問の目標校数を下回った。 ○生徒の司会や発表を取り入れた学校説明会を実施することができた。 ○外部会場相談会で昨年を上回る参加者を得た。	A
4	○ユネスコスクールとしてESD(持続発展教育)を推進しており、特に国際理解教育を中心に展開している。英語教育についても、GTECや英検での成績向上に向けて取り組んでいる。一方、ESD自体への理解が不十分なまま学校行事の一つとして取り組まれてしまう場面があり、課題として残る。	○英語教育の充実 ○ESD(国際理解教育)の推進	①英語を学ぶ機会充実(英検、GTEC、英単語グランプリ)・KOKUSAI Method(英検Week)の取り組み。 ②国際理解を深める機会の充実(世界異文化学習会・異国料理学習会・留学生受け入れ、海外生徒との交流、古着回収運動)。 ③ESDに関する講演や説明会の実施。	①各種検定試験の上位級受検者、合格者の増加につながった。 ②学習会や交流に向け目的やESDへの理解を促し、意欲を高めることができた。 ③ユネスコスクールの理念やESDについて理解を深めることができた。	○英検準1級合格者1名増加、2級合格者5名増加、準2級合格者40名増加、3級合格者10名増加(中高計;第1回と第2回の合計比較)、GTEC500点以上の生徒数3名増加(7月実施分) ○留学生2名(ドイツ、ブラジル)、マレーシア王立学校、インドネシア来校。 ○ミャンマー料理学習会の実施、五峯祭での販売。	A

学校評価	
実施日	平成29年2月23日(学校関係者評価) 平成29年2月28日(第三者評価)
評価委員からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケート分析より、授業における先生の言葉は聞き取りやすく丁寧に進めている。教えるべきことは徹底して教えた上で、生徒が思考する余地をもう少し残すことも必要である。 ・教室掲示について、行動目標を具体的に作り、「～すべからず」より「～している」の表現を増やすことが大切である。 ・行事等、生徒主体の取り組みをどれだけ用意できるかが大切である。明るい取り組みを継続してほしい。 ・進路指導では、生徒が自分自身を見つめ、人生を連続した形で捉えた勤労観を持たせることが重要である。その中でゴールを見据えて学習を進めることが大切である。 ・新テストに対応したカリキュラム開発や、授業アンケートによる生徒実態に即したシラバス見直しなどの取り組みは、高く評価できる。 ・引き続き栄養系・幼児保育系などの進学希望者については、高大連携も含めた指導をお願いしたい。 ・保護者へ学校の取り組みを説明・開示することは大切である。その方法は学校説明会もそうであるが、今はHPを頻繁に見ることが多い。よって、HPの適切かつタイムリーな更新と見せ方が重要である。 ・2年連続の1700名を超える志願者は、募集活動の成果として捉えることができる。 ・「英検WEEK」など分かりやすい言葉で明示していくことは大切である。せっかくであるので、ALTを英語の時間だけでなく、実技科目等で活用することも考えてもらいたい。 ・ホスト校としての「International Friendship Week」開催とその成果を大いに期待している。 	